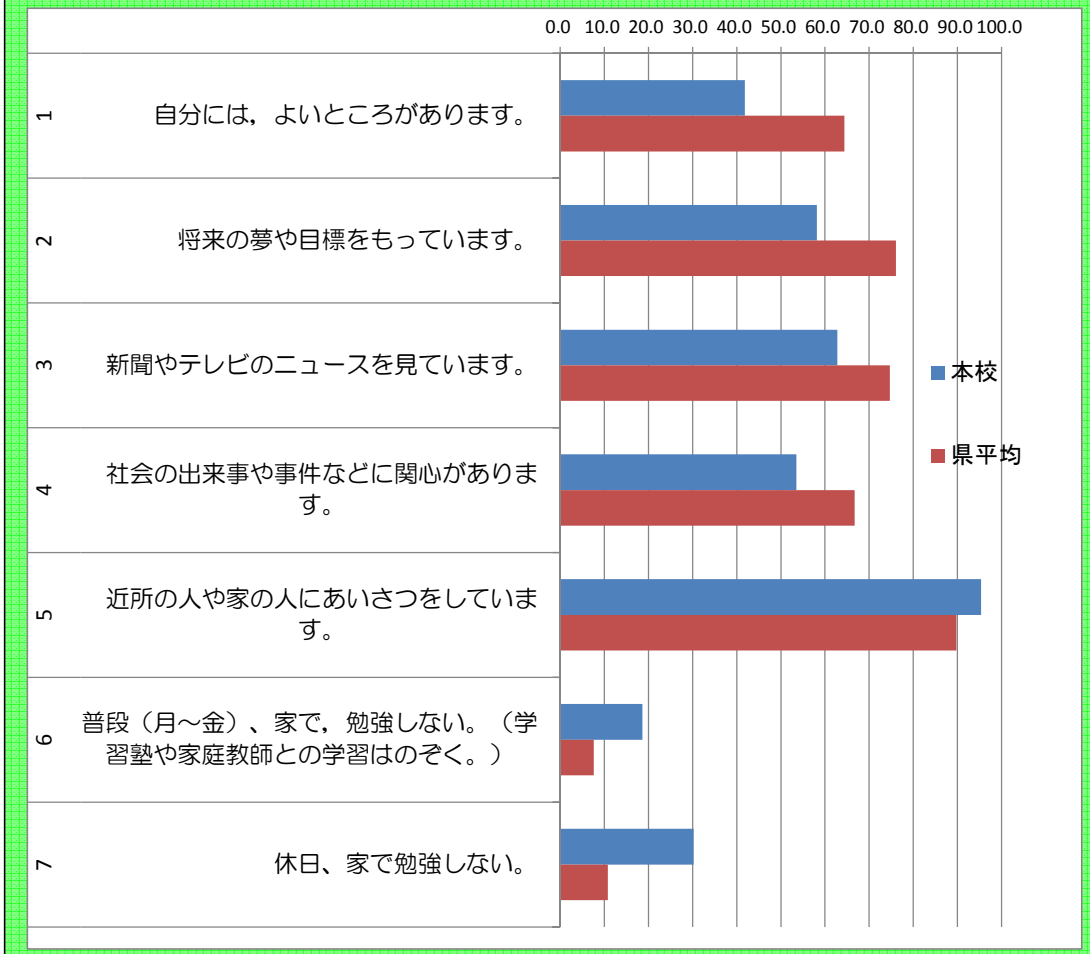
平成24年度基礎基本学力調査をうけて分析と指導方法等の改善計画について　広島市立日浦中学校

生活実態

あいさつがよくできるが、社会的事象への関心や体験等が少なく、せまい身の回りの世界で自分の価値を見つけられず低迷し、学習への意欲も失っている生徒が多い。



改善したい点

◎自己効力感・自己実現力にかかる質問項目すべてにおいて、県平均より低い。「自分にはよいところがある」に至っては22ポイント低い。
　この実態の原因を考えるとき、閉鎖的な環境・固定的な人間関係の中で、自分の良さを発揮したり評価されたり成功したりとプラスの経験がかぎられるからではなかろうか。
　自己有用感・自己肯定感を高めるよう教育活動を展開しなければいけない。

◎社会的事象への関心や体験等に関する質問項目でも県平均より10ポイント以上低い。ただし、「近所の人や家の人にあいさつをしています」は高い。「新聞やテレビのニュースを見ています」「社会の出来事や事件などに関心があります」は昨年に引き続き。、かなり低い。
　自分自身を、身の回りだけの小さな視野でとらえている生徒が多いといえる。自己効力感の低さと関係すると思われる。

◎家庭学習の習慣化がなされていない。家で勉強していない生徒の割合がとても高い。

具体的な取り組み

◎今年度の重点項目を「他者評価活動を進める」ことに設定し取り組んでいる。まさに、自己有用感を高める具体的な取り組みである。
　行事だけでなく授業でも、他者評価の場面を設定し、評価されること・評価することの相互活動を教育的にしくみたい。その教育活動の積み重ねの中で、生徒一人一人が自分の隠れた良さ・そのままの良さを発見するように努めたい。
　また、小グループ活動の役割分担や、話し合う学習活動は、生徒は固定的な生徒感を打ち破る機会となりうるものと思われる。

◎家庭学習キャンペーンの積極的展開を推し進める。

今年度の今後の取組とその指標

家庭学習キャンペーン・他者評価活動を積極的に展開し、生徒の意欲を高める。学校経営計画最終評価の評定4を目指す。